

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b><u>30</u></b>

事業所番号	2370400752
法人名	有限責任中間法人ゆうか
事業所名	街かどケアホームゆうか
訪問調査日	平成20年3月12日
評価確定日	平成20年4月9日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年4月10日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2370400752		
法人名	有限責任中間法人ゆうか		
事業所名	街かどケアホームゆうか		
所在地	名古屋市西区中小田井二丁目425番地 (電話) 052-505-5550		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成20年3月12日	評価確定日	平成20年4月9日

## 【情報提供票より】(平成20年2月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年5月26日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤 10人, 非常勤 5人, 常勤換算 3.5人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2~3 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	22,000 円	
敷金	有( 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (300,000 円) 有りの場合 無 償却の有無		(有) / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

### (4) 利用者の概要(平成20年2月20日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護1	8名	要介護2	6名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 77 歳	最低	51 歳	最高	95 歳
協力医療機関名	加藤医院				

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人は全国6都道府県にグループホーム、デイサービスセンター、有料老人ホームを経営している。ホームは中小田井公園の近くに位置し、3階建ての建物は周りの景観に溶け込んでいる。1階を地域住民に無料開放し、地域密着型サービスの役割を理解し地域交流促進に努めている。職員は尊敬と敬意の念を持ちながら入居者一人ひとりが「自分らしい生活」が過ごせるよう、完全個別ケアを特色とし、ホスピタリティー精神のもと、思いやりと心からのおもてなしによる洗練されたサービスを提供し、入居者が言葉に出されない部分のニーズに応え、医療、身体的な部分にも力を入れていきたいと前向きな姿勢で取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価について意欲的に取り組み、全職員が評価内容を検討し、意見を出し合い改善に取り組んだ。市町村との関わり、周辺施設等の理解、協力への働きかけに関しては日々の努力で改善された。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価、外部評価の勉強会を実施している。前回の評価に対して意欲的に取り組み、全職員が評価内容を検討し、意見を出し合い改善に取り組んだ。今回の評価により地域との関わり、業務や自分自身への見直し、サービスの質の向上や確保に活かしている。職員は毎日のケアが理念に基づいて行われていることが再確認できた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議を開いて今回で第9回目である。運営推進会議には、入居者、家族、町内会会長、提携医療機関の看護師、学校関係者、職員の参加で2カ月に1回実施している。会議の議題は、利用状況や活動の報告、新しい理念について、家族、地域との関わり等の報告、提携医療機関の看護師による感染症「ノロウイルス」「インフルエンザ」についての勉強会が行われた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 運営推進会議に家族の参加があり、意見や不満、苦情などについて会議の中で話し合っている。そのため、意見箱の設置はしていない。同じ職員が関わることで馴染みの関係ができていたので、要望や意見を直接職員に話してもらえよう環境づくりに努めている。環境整備や生活に関する部分は個別に対応している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入している。1階には子ども向け図書コーナーがあり、月曜日がソフトクリームの日になっており子供たちの楽しみの日になっている。町内会の会合などに利用できるコミュニティールームを無料一般開放している。自治会主催の盆踊り、お祭りには自治会より声かけがあり、お祭りには模擬店で参加をしている。近隣の小学校より、福祉実践教室の受け入れを行い小学生が「肩もみに来た」とホームに遊びに来ている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「ノーマライゼーションの考え方に基づき、高齢者本人の意思を尊重し、誰もが自立した生活と自己実現が出来る地域福祉の構築を目指す」である。理念は法人の理念であり、開設から6年、声に出されない入居者に対して職員が関わることができずホスピタリティの理念を付け加えることになったが、ホーム独自の理念はつくっていない。		法人の理念と共に、街かどケアホームゆうかとしても、住み慣れた地域で「自分らしい生活」を支えるために、個別ケア、ホスピタリティ精神の思いを理念に反映しホーム独自の理念も検討されることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関や事務所など目につきやすい場所に掲示している。理念研修、全体会議において理念を共有している。職員は日々理念を言葉に出してはいないが、初心を忘れず、尊敬、一期一会の気持ちで、理念をよく理解し介護の場面にも、入居者一人ひとりの意思を尊重したケアに活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。1階には子ども向け図書コーナーがあり、月曜日がソフトクリームの日になっており子どもたちの楽しみになっている。町内会の会合などに利用できるコミュニティールームを無料一般開放している。自治会主催の盆踊り、お祭りには自治会より声かけがあり、お祭りには模擬店で参加をしている。近隣の小学校より、福祉実践教室の受け入れを行い小学生が「肩もみに来た」とホームに遊びに来ている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の勉強会を実施している。前回の評価に対して意欲的に取り組み、全職員が評価内容を検討し、意見を出し合い改善に取り組んだ。臭い問題は、掃除のみのパート職員を採用し、消臭剤を置いたり、汚物は即片付けることで改善された。今回の評価により地域との関わり、業務や自分自身への見直し、サービスの質の向上や確保に活かしている。職員は毎日のケアが理念に基づいて行われていることが再確認できた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議を開いて今回で第9回目である。運営推進会議には、入居者、家族、町内会会長、提携医療機関の看護師、学校関係者、職員の参加で2カ月に1回実施している。会議の議題は、利用状況や活動の報告、新しい理念について、家族、地域との関わりの報告、提携医療機関の看護師による感染症「ノロウイルス」「インフルエンザ」についての勉強会が行われた。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議への参加のお願いに地域包括支援センターへ行くが、よい返事がいただけない状態である。権利擁護を利用されている方もおり、書類の関係で、市役所や西区役所に行き来する事が多く、ホームでの生活状態を詳細に報告している。区からはホームの空き状況の問い合わせが月に1~2回ある。管理者、役職者が必要に応じ、市と区の担当者に報告や相談に行き来している。</p>		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>個別担当制をとっている。同じ職員が継続的に関わることで、入居者の日々の様子が把握できている。ホーム便りの発行は無いが、ホームでの暮らしぶりや、健康状態を週に1度担当職員から、家族へ手紙による報告をしている。金銭出納帳をレシートと照らし合わせて家族から確認印をもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議に家族の参加があり、意見や不満、苦情などについて会議の中で話し合っている。そのため、意見箱の設置はしていない。同じ職員が関わることで馴染みの関係ができているので、要望や意見を直接職員に話してもらえよう環境づくりに努めている。環境整備や生活に関する部分は個別に対応している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人内、ユニット間の異動はほとんどなく退職者は少ない。ユニット間の異動には入居者が声がけしやすい職員を配置し、常に全職員が顔馴染みの関係が継続できる対応が行われているので、ダメージはない。入居者は行き届いたチームケアのもとで日々、自由にゆったりと過ごしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には約4週間の研修を行い、入居者への馴染みの関係ができる期間を十分取っている。職員のレベルアップのために、接遇マナー研修、介護支援専門員、介護福祉士資格取得支援にも力を入れており、法人全体で取り組みを実施している。外部研修参加のために勤務体制の変更を行ない、職員が参加できる体制を設け助成金補助支援にも取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新規の施設があれば見学に出向いている。介護支援専門員、介護従事者対象の介護セミナーを実施している。名古屋市主催の研修会で、集まった管理者で西区、北区間で交流ができるように働きかけ、サービスの質の向上を目指している。他の事業所との職員同士が交流のする場には至っていないが、職員は個人的に交流の機会を設けている。他のグループホームとの交流会や勉強会の実施を検討している。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりの利用ではなく、相談の段階から契約、入居に至るまで同じ職員が関わり顔馴染みの関係に力を入れ安心していただいている。入居前には宿泊体験入居を実施し、コミュニケーションを密に取りながら信頼関係を築いている。独り暮らしの方が入居を希望された場合には、職員が引越しの手伝いを行うこともある。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の方から教えて頂いたり、学ばせて頂くという気持ちで向き合い、料理や昔の話をよく聞いたり、人生相談にのっていただいたり、思いのある言葉をかけてもらったりなど、一方的な関係ではなく、共に支え合う関係を築いている。法人内異動で他県から来た職員には、近所に出かける時に入居者に道案内をしてもらったりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の生活歴、入居後のアセスメントが詳細に記載されており、入居者の状態を職員は把握している。入居者が家族に会いたいと言葉に出された時は、自宅に電話を入れ家族の声を聞くことで安心してもらっている。入居者の行き付けの喫茶店、理髪店に行けるようお手伝いをさせていただいている。入居者と関わる時間を多く持つように心がけ、日課や行事に合わせるのではなく入居者の希望に添う支援に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>アセスメントから情報を得ている。ユニット毎に入居者に変化があれば、ケアカンファレンスを開催し、家族からは訪問時か電話で要望を尋ね介護計画に活かしている。介護計画の設定期間を長期目標6カ月、短期目標3カ月としているがADL(日常生活動作)の変化によって期間に関係なく見直しが行われている。現在、モニタリング表(計画に対する評価表)の見直しを検討している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直し期間は現状6カ月であり、期間毎に見直し、変更、継続されている。個々の状況により、1カ月単位で見直すケースもある。毎日の状態をケース記録に記載し、継続することで変化を小さな段階で発見し、職員会議で対応を協議している。家族には訪問時に希望の聴取、計画および現状の説明がされている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者の入院時には毎日見舞いに通い、医師や看護師に病状を確認しているため、退院時には必要な情報が事前に聴取、確保されている。入居前からのかかりつけ医への受診の支援も行っている。ホーム退去時には転居先と連絡を密に取り合い、転居後に対応を相談されることもある。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診支援を行い、医療機関に対する支援は家族アンケート結果でも高い評価を受けている。かかりつけ医受診の場合は同行した職員から家族に対し、病状や服薬の変化などが詳細に説明されている。ホームの目の前に提携病院があり、日常の病変には素早く対応している。内科、外科、皮膚科、整形外科に対応できる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の希望により重度化に対応しているが、ホームとして重度化の定義を文書化はしていない。医療への移行は医師の判断を仰ぎ、現状、今後の予想を家族に伝え最終的に決定を委ねている。対応をマニュアル化し、職員に徹底する予定である。医療連携加算を視野に看護師の配置を検討している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは、情報の種類の限定や新聞などへの掲載（掲載時に再度承認が必要）と細分し同意書が取られている。各居室は施錠できるようになっており、本人の意思を尊重し、鍵の管理を任せている入居者もいる。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意志を最重要視し喫煙も居間のみでなくリビングでも可能である。好きな時に1人で外出し、好きな時に帰って来る方もいる。23時頃まで何人かでおしゃべりし夜更かしを楽しむ方もいる。ホームに大きな仏壇を持ち込めないため、職員が毎日自宅へ同行し、花を供え水を代えることを日課としている方もいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューはなく、毎日入居者の希望に合わせ食材を購入している。そのためユニット毎にメニューは異なっている。3階ではバイキング形式を取っている。毎年5月はホーム開設記念祭を催し、餅つきなどを行い入居者のみならず地域住民も楽しみにされている。誕生日にはその人の好物が用意される。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、時間を問わず対応している。そのため入浴の途切れた時間に清掃し、その都度湯を入れ替えている。入浴について、家族と入居者の希望が一致しない場合は入居者の希望を優先している。また、入浴日の間隔が長く開いてしまう場合は、清拭や足浴と着替えなどで対応している。着替えることにより入浴に繋がるケースもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者は1人で、あるいは見守りで、好きな時に好きな物を買いは出かけ、散歩の途中で喫茶店に寄っている。自分で洗濯や掃除、裁縫、洗濯物干しをする方もいる。訪問時にも自分から調理、配膳する入居者の姿が見られた。農業経験のある方が入居され、庭を菜園にして土いじりをしてもらう計画がある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	基本的に集団での散歩はなく、すべて個別対応している。家族アンケートの外出の評価が二分されているのは、そのためだと納得できる。1人で買い物や喫茶店に行き、公園で子どもの遊び相手をしている入居者の姿も見受けられた。外出にタブーはなく、銭湯に行きたい時には職員が同行支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームはいつでも開放しており、入居者も自由に入出入りしている。外出の前兆を見逃さず「一緒に行きましょうか?」と誘い、積極的に外出支援している。居室は施錠可能であり、鍵を自分で管理する方もいる。夜間は防犯のため施錠しているが、自分で開錠し近所へタバコを買いに行かれる方もみえる。家族訪問は24時間対応している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者として複数の職員が資格取得している。防災計画に基づき年2回の火災訓練、防火施設点検が実施されている。職員は救命講習を受講している。運営推進会議メンバーに地域消防団関係者がおり、ホームは町内会にも加入しているので、いざという時頼れる関係になっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は1日1,500ccを目標とし、最低でも1,000ccを摂取するようにしている。医師の指示によりチェックが必要な方はチェックリストにより、水分、食事の摂取量を職員がチェックしている。定期的に血液検査を実施しているが得に問題はない。糖尿、肝臓病、高血圧、きざみ食にも対応している。		3階ユニットではバイキング形式を採用しているため、食事や水分の摂食量の把握が困難と思われる。管理している人もいるが、全体的におおまかな把握ができるよう、職員の衆知を集め栄養のバランスについては、偏りがないよう専門職への相談やアドバイスを受けるなど関与についても検討されることを期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは入居者のADL（日常生活動作）の状況や人間関係の変化に合わせ、ソファなどの配置換えを行っている。人間関係に配慮し、事務所を1人になれる空間のために改造している。見当識障害の一助としてリビングにカーテンを利用し、自分の居室が分かりやすくする工夫もされている。リビングには加湿器が設置されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットはホームが用意している。テレビ、イス、テーブル、仏壇、冷蔵庫を持ち込まれる入居者もいる。それぞれの居室は、個性があふれており、各居室には洗面台及び大きな鏡が設置され、日常の整容に役立っている。エアコンは職員が調節しているが、自分で調節しリモコンを管理する方もいる。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。